

目次

| | | | |
|------------------------------|-----|---|-----|
| 北海道自転車一人旅(1)..... | 1- | (雑感)..... | 17- |
| はじめに..... | 1- | コンビニ..... | 17- |
| 舞鶴フェリーターミナルまで..... | 1- | 不要品..... | 17- |
| 船中..... | 1- | 費用..... | 17- |
| 若いときの北海道の経験..... | 1- | 「すずの子」2012年2月号寄稿「量より質に向けて」..... | 18- |
| いよいよ北海道..... | 2- | 1. 会員拡大目標125人を達成して..... | 18- |
| コース..... | 2- | 2. 会員拡大は..... | 18- |
| ゼッケン「守ろう!! 平和と緑」核兵器廃絶!」..... | 3- | 3. 例会参加と会運営参加.. | 18- |
| 出会い..... | 4- | 4. 感動ある山行を..... | 19- |
| 登山..... | 5- | 5. 独り立ちする登山者、ハイカーに..... | 19- |
| 旭岳2290.3m..... | 5- | 6. 単独行について..... | 19- |
| 羅臼岳1661m..... | 6- | 7. 若い仲間を..... | 19- |
| 北海道自転車一人旅(2)..... | 7- | 8. リーダーを大切にする会に..... | 19- |
| 関寛斎と陸別..... | 7- | 9. 団結の基礎を地域に!.. | 20- |
| 襟裳岬..... | 8- | 10. 財政..... | 20- |
| 北海道自転車一人旅(3)..... | 9- | 大仁さんの思い出..... | 21- |
| 宿..... | 9- | 2016年1月11日(月)初日の出(ブログ「自然と仲よし日記」より)..... | 21- |
| 道と交通..... | 10- | 2011年12月18日(日)納山祭 市ヶ原 年を振り返りワイワイと..... | 21- |
| トンネル..... | 11- | 2011年1月23日(日)六甲山系・再度公園~鍋蓋山 寒さに負けず歩こう..... | 21- |
| 川・河..... | 11- | 2010年8月22日(日)六甲山系・大池地獄谷 夏の六甲山を楽しむ... .. | 22- |
| 斜里..... | 11- | 2010年1月1日(元旦)日の出ハイク お神酒でカンパーイ おらが山..... | 22- |
| 国後島..... | 12- | | |
| 牧場と農場..... | 12- | | |
| 北海道自転車一人旅(まとめ)..... | 13- | | |
| 気候と天候..... | 13- | | |
| 食事と飲物 金カップ..... | 14- | | |
| 地名と旭..... | 14- | | |
| 自転車野郎..... | 14- | | |
| 自転車..... | 15- | | |
| 羊蹄山を振り返りながら下山..... | 15- | | |
| 忘れ物..... | 16- | | |
| 落とし物..... | 16- | | |
| 歯医者..... | 16- | | |
| 幸運..... | 16- | | |
| 次の目標..... | 16- | | |

北海道自転車一人旅(1)

はじめに

2006年7月31日「守ろう!! 平和と緑」「核兵器廃絶!」の兵庫労山のゼッケンを着け、自宅を出発。8月1日小樽に上陸。旭岳に登り北見峠を越え、関寛斎によって切り開かれた陸別を訪ね、ウトロから羅臼岳に登り知床峠を越え、国後島を眺めながらオホーツク海岸を走り、襟裳岬を周り羊蹄山登山口から8月27日小樽に下り、8月29日、帰宅しました。

その間、私の旅がHP 掲示板に取り上げられるなど仲間の声援、激励を背に、行く先々で人々の善意に支えられ、一日も休まず30日間、無事故で1769.7km 走りました。



乗船中の2日間と登山中の2日間を除く26日間の平均走行距離は1日68.1kmでした。

熊の出没による知床五湖、霧と雨のため根室納沙布岬・釧路湿原の散策や、相棒ができず諦めた羊蹄山登山など実行できなかったこともありましたが、健康と幸運に恵まれ、満足のいく旅を終えることができました。以下、印象に残っていることを記録し、報告します。

舞鶴フェリーターミナルまで

7月31日(月)曇・雨・晴

5:10 妻に見送られ自宅を出発。

7:00 小野ひまわり公園から銭別を頂戴した中尾さんに出発挨拶の電話をする。

さすが早起きの中尾さん、間髪いれず受話器をとってくれる。

12:00~12:30 春日町のスーパー「サトー」で

昼食。

18:40 133.5km



舞鶴港に停泊する自衛艦

東舞鶴新日本海フェリーターミナル、昨夏、西舞鶴までは下見していたのでスムーズにこれた。しかし、この旅の1日最長距離で、トンネル一つに峠三つを越えた。

昨日までのトレーニングは空身で走っていたが16kg 積んでの走行となって、登りは重い。

船中

曇り、島影なし。沖合150kmを航行中と船内アナウンスがある。方角をコンパスで見る。携帯電話は積丹半島・神武威岬が見えるまで通じなかった。電話カードを買い、人工衛星を使った公衆電話を使う。船に乗っていて思い出したことを次に記す。



フェリー「はまなす」と交差する「あかしあ」から

若いときの北海道の経験

20歳代(昭和30年代)のとき、富士鉄(八幡製鉄と合併して新日本製鐵になる前)室蘭製鉄所に2回・大王製紙(岩倉組)苫小牧工場・住友鋳

業鴻の舞金山と4回、工業用計量機の据付調整工事でそれぞれ10日前後滞在したことがある。

当時は、大阪発22:30急行日本海号3等列車で24時間揺られた後、競争のように棧橋に走り、青函連絡船に乗って、翌朝5:00函館から、また、急行に乗り直して目的地に向かったものである。往きは時間がなかったが、帰りの青函連絡船は多数の見送りから見送られる親子・兄弟・知人・友人に5色のテープが投げられ、「蛍の光変奏曲」がピアノ・ヴァイオリン・チェロと主役が替わりながら奏でられる中、ゆっくりと岸壁を離れる光景はセンチメンタルでロマンがあった。

長万部近くになると富士山のように裾野をひいた羊蹄山が印象的だった。



室蘭では、近くにあった登別温泉に行った。コンクリート塀に囲まれた空地に熊が放し飼いされている熊牧場や木造3階建ての竹本旅館が珍しかった。男女混浴で、体育館ほどある建て屋のなかに大小いろんな形状の浴槽が多数あった。その間を婦人がバスタオルを胸からぶら下げて闊歩(かっぱ)していた。

苫小牧では、築港が進められていた勇払から原野を真直ぐ突進み支笏湖へ行き、観光にきていた道産娘と仲良しになって樽前山に登った。前列真中の女の子は清純で明るく気持ちのよい子だった。

商店街では盆踊りが行われ、道傍ではトウモロコシが焼かれ売られていた。盆を過ぎると急

に涼しくなり、背広と詰襟に替わる。半袖の私は風邪をひいた。

鴻の舞金山では1月2日、消防出初め式の酒がさめめ状態で列車に乗り込み、急行大雪号が旭川では5輻のドンコに変わり、遠軽に着いたときは4日の19時だった。翌朝、バスで山の中に入ってゆく。足が冷たく、手袋を足に履かせて笑われた。風呂の湯は熱い、湯殿は凍っている。「シバレル」を実感した。廊下は寒いが、部屋はストーブでシャツいち、瓶に魚と野菜を交互につけた漬物がシャーベットになっていて酒によく合う。鴻の舞の町は谷間にあって、両側の斜面には小旗が立てられ、子供がスキーで下ってくる。私達はスキーを履いて立ったら滑って転んでいる。『内地の人はだめね』と笑われた。

いよいよ北海道

8月1日20:30着岸、それから宿を探すのは大変と思い、船でボーイに聞いていたフェリーターミナルから300mほどのところにある小樽温泉(健康風呂)に泊る。



札幌駅

コース

当初計画では山の会の総会が済んだ6月末から2ヶ月余りで札幌 夕張 富良野 旭川 旭岳 留萌 宗谷岬 オホーツク海岸を南下、陸別を目指す。今回は以上を割愛した。

ゼッケンの下に書かれている「兵庫労山」を指した。『関西から、すごいね。元気だね。何歳?』の会話から出会いが始まった。

出会い

最初に親しくなったのは、登山客の少ない天人峡温泉から自転車を担いで化雲岳、分岐にデュポしてトムラウシをピストン、沼の原まで縦走するという計画をフェリーの中で丹念に地図を見ながらノートしていた京大三回生。私の名刺にメールアドレスを書いてもらう。

出張仕事が終わったので山に登るといふ男性と登山口行きバス停車前から親しくなる。登った山の交流から若いとき出張した富山県魚津の話をする、住んでいる所だといふ。帰宅すると写真付のメールが届いていた。旭岳から下りて泊ったのが民宿大雪山荘。女将いわく『昭和50年代、カニ族がはやった。私もカニ族だった。』



旭岳から下山してケーブル駅売店で乾杯する

カニ族が住みついてしまったのが私。生まれは東大阪よ。年に一度は両親が訪ねてくるわ』
『北海道は仕事がないの。離婚率も日本一よ』
『石北峠(1040m)は高くトンネルも長いわ』

この忠告を聞いて上川町から北見峠(830m)を通るコースに切替えた。北見峠を下って泊ったのが丸瀬布の「越後屋」。ここで測量士3人組にニッカウイスキーと鮭の燻製をよばれる。

真っサラの鮭の燻製まで持ってゆけと頂戴する。立派な保存食だ。5日後、羅臼岳下山後の乾杯に出して相棒3人に喜ばれる。



オホーツク海から見た羅臼岳

羅臼岳登山の先頭を登ってもらったY氏は快活な若者であった。彼から帰宅したらメールがきていた。『...ウト口のまちで見かけたときは重そうな荷物にドカタヘルメットかぶっている隊長で「すごい格好だな。大丈夫かな?」.....、隊長っぽい姿で素敵でした。.....知床峠を羅臼町にむかって走っていると、上り坂を自転車を押す隊長の姿がありました。クラクション.....、気がついたでしょうか.....? あんなとこ、70歳のおっさんが走っちゃいけませんよ.....。』

どこからあんなパワーがうまれるんですか?



羊蹄山

ただただ尊敬の一言です。でもオレも負けませんよ。パワフルなおっさんになってやる!...先週の日曜日です!! NHKの少年野球教室が共和町という町であったのですが、そのロケに行く途中なんと隊長が走っていたのです!あの格好で.....、ここは羊蹄山のふもと。車の中で一人「うわ おおにさんだ!!」.....、ず

と羅臼岳の話をもみんなにしてみました
たWWW』

羅臼町から標津町間のトンネル、自転車を
押して歩いていると若い女性が追い越したと
ころで下車してにっこり笑って一緒に歩き出す。
翌日も出会う。追い越されては追いつき、追い
ついては追い越され、国道には数キロごとに舌
のような形の休憩できるスペースがある。そこ
に二人並んですわり、甘納豆をつまみながら話
し、彼女も羅臼岳に登ってきて襟裳岬に行く
という。彼女の自転車は24インチ。(「私の自転車
は24インチでなく18インチです。BD-1とい
う自転車で折りたたみのなかではよく走る自転
車です」とメールがありました)

ハンドルの前に鞆をつけ、マジックテープで
透明アクリルのマップケースを付けてある。走り
ながらライダーマップが見えるように工夫した
と誇らしげ。半ズボンをちょっともち上げてピ
ンク色にやけた腿をみて焼けちゃったとって、
悪戯っぽくニッと笑う。実に愛らしい。翌日、
もう逢えないかと思っていいたら厚岸の道の駅で
ひょっこり『自転車を見かけたよ』とよってこ
る。

名刺を交換し、メール交換を約束し別れる。

これ以上一緒にいると別れたくない気分にな
りそう。この後、神戸中央山の会のHP掲示板
に私と出会ったことを書き込んでくれていたこ



北海道の溪流放浪の旅
2006年6月～10月

— 陸揚げ釣った53cmのブ라운トラウト —

さすらいの釣り師 **飯塚 友章**

950-2162
新潟市五十嵐中島2-25-17
TEL: 025-262-0866
携帯: 090-5318-4936
E-Mail: mori-keiryu@nifty.com
URL: http://keiryu.world.cocacn.jp/
溪流の文化と環境 事務局

とを本田さんからメールをいただく。

上の名刺は襟裳岬YHで支配人かと思っ
ていたら、ここに投宿しては釣りをしながら北海
道を周っているのだといわれていた。夕食に岩
魚の塩焼きが出てきた。この人が釣ってきたも

のだそう。毎日、お客の数だけ釣ってくるのだと
いわれていた。明日から、稚内から斜里の方面を
周るともいわれていた。パソコンで作った自家
製の名刺が、節度をもって親密になるのに大い
に役立った。

仲間を作るのには、相手により印象が残るよ
うな宣伝と誠実なつき合いだと思った。

登 山

体調・天候・相棒・土日が揃うことを条件に
登山した。

羊蹄山は相棒が見つからなかったので諦めた。



姿見池から見た旭岳

旭岳 2290.3m

2006年8月5日(土) 快晴

9時前、旭岳温泉ケーブル駅行バス停車前で
登山の服装した紳士と出会い、並んで歩く。バ
スの中で意気投合。

彼は富山県の山の会の会員で健脚だ。

旭岳温泉駅 1100m 10:25

姿見の池駅 1600m 10:40

姿見の池 1680m 10:50

7合目 1930m

8合目 2060m

9合目 2100m

頂上 2290m 12:00



旭岳頂上

姿見の池まではコケモモやチングルマやミヤマキンバイなどの高山植物が咲いていた。そこから上は火山礫、白い煙を横目で見ながら高度を稼ぐ、硫黄の臭いがする。琵琶湖の3倍ほど広いとロープウェイでアナウンスされていた大雪山国立公園の広さが望まれる。私のリュックの『神戸中央山の会』の腕章を見たから登ってきたという三木の夫婦が到着。360度の展望、18、風4~5mm長袖を羽織る。ふもとに住み40年間、大雪山系の植物調査をしてきたという人が『あれが間宮岳、北鎮岳、忠別岳、トムラウシ。熊はこの季節1800m以上にはいない』と説明してくれる。川井さんたちはトムラウシへ縦走、うらやましいなあと思って下山。

羅臼岳 1661m

11日(金)ウトロから岩尾別YHへ向かうバスで昨日、羅臼岳に登ってきたという女性に会う。彼女に12日登るといふ3人を紹介してもらおう。

2006年8月12日(土) 快晴

3人から『隊長、隊長』と呼ばれ、その気に

なって先頭・写真係・記録係と任務を指名しストレッチをしてから登り始める。登山口木下小屋は近代のホテル「地の涯」の陰になって全く目立たない。



| | |
|---------|-------------|
| 木下小屋 | 6:35 |
| オホーツク展望 | 7:30 |
| 弥三吉水 | 8:30~8:45 |
| 銀冷水 | 9:45~10:00 |
| 大沢 | 10:30 |
| 羅臼平 | 11:10~11:00 |
| 頂上 | 13:00~13:15 |



羅臼岳頂上

西村美和子さん 角谷純一さん 柳沢義之さん

オホーツク展望まで登るとオホーツク海が見えた。弥三吉水も銀冷水も冷たい。大沢には雪渓が残っていた。

羅臼平で聾啞の20人ほどと一緒にいる。健常者5人ほどがサポートしていた。先に登ってもらおう。

羅臼平から頂上までの間は一辺が1mから2

mほどもある石の積み重ね、その間を急登する。
六甲の荒地山岩梯子のような感じが1時間ほど続く。頂上は風が強くガスっている。

雲の中にいるようだ。角谷さんの眉毛が水滴で白くなっている。私のセーターも水滴が一杯。夕食の後、ユースホテルの自家製の果実酒が500円出せば飲み放題で、盛り上がる。



羅臼平から望む羅臼岳

北海道自転車一人旅（2）

関寛齋と陸別

陸別町開拓の祖「関寛齋」のことを陸別では関寛翁という。町役場を訪ねると、関寛翁顕彰会事務局長の斎藤省三さんを紹介してくれた。

軽自動車でも1時間ほどかけて関寛翁ゆかりの地を自ら運転して案内して頂いた。関寛翁神社・寛齋が最初に鋤を下ろした場所、そして夫婦が埋葬され土饅頭が二つ並んでいるという「ゆっくえびらの丘」への登り口・寛齋の農場・徳富蘆花と一緒に歩いて自然や人生を語ったといわれる道・関寛翁記念館。

町民文芸誌「あかぞえ」を頂戴して、すぐ自転車で周り始めたが、緑町を抜けて関寛翁神社への道がわからない、おなじ所を行ったり来たり。時間がたつばかり、閉館時間が近づく記念館を見学。翁とお愛の写真は意外に若かった。

司馬遼太郎の肉筆原稿を見た。彼でも修正挿入が沢山書き込まれていた。

関寛齋と陸別を知ったのは司馬遼太郎の「街道は行く」シリーズの「北海道の諸道」と小説「胡

蝶の夢」であった。蘭方医の職業と地位を捨てて愛妻と73歳で北海道十勝国斗満原野開拓に入る。

トマムとは湿地のことと斎藤さんから教わる。



かつての関寛齋の農地

日光と土地と動植物の中で生涯を送ること労働すること 家庭 - 立身出生を否定した上での家庭を彼は信条にしていた。妻お愛の手織物しか着ないといっていたそうである。お愛の遺言も「葬儀はいま行わないでほしい。夫の死んだときに一緒にしてほしい。二人の死体は同穴にうずめ、それによって草木をやしない。牛馬の餌とされることを望む。」であった。



彼は無神論者で、科学的合理主義者で経営の才覚があったと書かれている。しかし、開拓した土地を仲間に分け与えてしまい、長男から訴

訟され、開拓の設計図を書いた四男からは儲かる農業をしないと疎んぜられる。83歳で服毒自殺をする。 斎藤さんに『なぜ自殺したのだろう?』と訊いてみた。『わからない。精神的にも疲れていたのではないか』と答えが返ってきた。

私は思う、浮気を含めて自分の欲望のために、愛を損なうものは最低だ。

第3セクター「ふるさと銀河線」に生まれ変わり、現在は路線の廃止。財政支援打ち切りを訴える北海道と存続運動が平行線をたどる。と文芸誌「あかえぞ」に斎藤省三さんが書かれている。



「ふるさと銀河線」は今年廃線になった。通学していた高校生は帯広辺りに下宿しなければならないか? という記事を読んだことがある。写真は廃線決定当時のまま残されている駅舎。駅舎と並んで道の駅・関寛翁記念館がある。

襟裳岬

広尾町から襟裳岬へ襟裳岬東海岸に行く。

山が海岸まで迫り出している。短いが、トンネルも数ヶ所ある。もっと多く覆道という雪害保護のシェルターがある。沖には何も見えない。走れないほどでなかったが、向風が結構きつい。

天気がころころとよく変わる。海岸は砂利と岩礁である。老人が昆布を拾いながら、波打ち際を歩いている。荒涼とした感じた。

牧場もある。百人浜の標識がありキャンプ場

の看板も上がっている。動物保護の標識も 2km ないし 3km ごとに立っている。広い草原を自由に行き来していた動物の棲家に勝手に道を作ってから保護をいうのは勝手者というよりいいようがない。牧場も数kmごとに次から次とある。



道は海岸を離れて草原のなかを走る。



丘の上には風力発電の風車が2機回っていた

10数回、軽トラとすれ違っただろう。

どの車も直径10cm、長さ2mほどの棒の先に滑車をつけた簡単なクレーンを荷台に取り付けている。昆布を海岸から積んだり、乾したりなどの積み下ろしに使っているのを見た。あちらこちらに砂利を敷き詰めた空地がある。そこに早朝から、家族総出で昆布乾しをしている。



岬東 1km ほどのところに 100 軒ぐらいの街がある。小学校も郵便局も、小さなスーパーも旅館もある。私は YH に泊った。

襟裳町本町までは 10km 以上はある。さらに西の三石町辺りまで国道の両サイドは昆布乾しの光景だった。この辺りは日高昆布の産地だ。日高昆布は羅臼昆布や利尻昆布に比べて安い。



北海道自転車一人旅 (3)

宿

小樽は健康風呂に泊る。札幌では調べてきたライダーハウスに電話したが『使われていません』とメッセージ。調べていったライダーハウスは数件が連絡できなかった。

札幌駅構内の観光案内所を訪ねる。『そこは廃業されました。よければ別のところを紹介します?』紹介されたところが「ねこジェラシー」。

泊り賃は 1000 円、食事は隣の居酒屋。

次の宿泊所は調べていた滝川市サイクリングセンター、ここは電話したら丁寧に道案内された。

清楚な美人だった。 4500 円



次の旭川は駅前のホテル、素泊まり 6000 円。高かったのは舞鶴の素泊まり 8600 円。釧路湿原の食事付 9000 円、これは断わった。

安かったのは食事付で 3000 円だった網走福富の温泉民宿、上川町のライダーハウス「ちゆりん村」のテント泊 300 円、500 円渡して釣りはいらないうと、トマトを持ってきてくれた、ここの入り口にある水車の水が無茶くちゃ冷たかった。シャワーもトイレもコインだ。



厚床駅舎

厚床の駅前旅館(5800 円)を朝出発しようとする青年が『駅舎で泊っていた』と出てきて、知床のほうへ走り出す。

襟裳で写したバス停、1 辺 3m ほどの小屋である。昼間でも人はまばら。バス停でこれなら寝られる。

門別本町の岩村旅館は 2 度訪ねたが留守、泊るつもりで荷物を運んでいたら女将さんが帰ってきた。自宅の洗濯機の乾燥機を使わしてくれる。乾していた洗濯物が見あたらなくなったら、探してくれる。宿に着いて一番にするのは洗濯。

ほとんどの宿がコインで動く自動洗濯機と乾燥機を備えている。自動販売機を置いていると

ころもあった。民宿・旅館は親切、ユースホステルのなかには官僚の臭いがした。

苫小牧のさわだ旅館(5400 円)で宿帳を書いていると『私も変わった苗字よ』と女将さんが名



刺「開発」を出してくる。この旅館は居酒屋もやっている。飴を行動食に頂戴する。

門別本町の岩村旅館に送られてきた自転車で全国を67歳から2周した

という人の記録を見せてもらった。私の泊った旅館にも泊られていた。

道と交通

札幌から国道12号線を走った。美幌町から滝川までは真直ぐだ。緩やかなアップダウンはあるけれど、左右は定規をあてたように真直ぐだ。「日本直線最長距離 29.1km」の標識が立っている。車なら眠くなるのではないかな？

わたしも居眠って、横断歩道橋に頭をぶつけた。

市街地は2車線ないし3車線ある。歩道も側道も広い。そして平だ。

郊外では車線は減るし、歩道はなくなり側道

は狭い。制限速度は50kmになっているが、80kmから130kmくらい飛ばしている。

対抗車線に車がなければ、センターラインを超えてよけて走ってくれる。でも対向車があり、よけられず身体から30cmくらいを走られえると、ゾっとする。トレーラー・バス・コンテナ車・タンクローリー・ダンプカ - は耳で聞き分け、止



まって行過ぎるまで待った。

滝川を過ぎて20kmほど走ると、石狩川と並んで走り、トンネルがある。そのトンネルは歩行者・自転車通行禁止である。巻き道がある。

入口には上の立看板がある。3kmほどであるが、口笛を鳴らしながら走った。誰も通らない。

国道12号線に戻り、4km余り進むと旭川市外が見えてくる。旭川は落ち着いた街だ。



8月4日旭川駅前、翌日から祭りで歩行者天国にしていた。そこに土砂降りの雨が降った。



釧路のサイクリング道路

釧路湿原に行くとき走った。実に走りよい道だ。並んで散歩道がある。数人出合った程度だ。主要な市にはほとんどサイクリング道路がある。

トンネル

四国では出入りに銘板が張ってあって、長さが書いてあった。北海道はない、中に入ると、入り口から210m出口まで1210mというように書いてある、さらに200m進むと入り口から410m出口まで1010mと書いてある。トンネルには歩道がある。市街に近いところは広い。山の中のトンネルは狭い。荷台に取り付けたフリッカーするライトを点灯して、車道を走らず、歩道を押して歩いた。照明は比較的明るい。

川・河



上は石狩川と夕張川が合流した地点です。石狩川は多くの川と合流して大河になっている。

河幅が500m位はあるだろう。上川町を過ぎて北見峠手前では10mぐらいになっている。



北海道は川が多い。数m以上の川が数km行かないうちにある。橋には名札がすべて立っている。

コンクリートの堤防を見たことがない。水辺から緑の樹木が生えている。大きな川の傍には大きな市街がある。水不足を聞いたことがない。



三国橋

斜里

網走市福富の温泉民宿福富荘に泊っていて、81.53km走って、ウトロに着いた。

朝のうちは、国道334号線は雑木林の中をうねうね走る。国道に狐がこちらを向いている。カメラを出している間に草叢の中に入ってしまった。犬と違って尻尾が太い。北海道には、まだ自然が残っている。路面にトンボ・チョウチョ・バッタ・蜘蛛・蛇・みみずなど、名の知らない

虫が生きているのやら死んでいるのやら沢山いる。ふまないように走る。虻が顔のまわりを、払っても、払っても、しつこく飛びまわる。



斜里町に着くまで直線道路の右手前方に斜里岳(1547m)が望まれた。登りたくなるような山容だった。斜里町を過ぎてから知床半島の北東海岸を走る。リュックにさしているストックを釣竿とよく間違えられた。もう鮭が釣れ始めているらしい。キャンピングカーやテント張りで釣っている人を見かけた。



国後島

知床峠を下ると羅臼町、羅臼町から南下して羅臼峠(80m)を越えると標津町だ。この辺りの海岸からは国後島がよく見える。写真より肉眼のほうがはっきり見える。展望所もつくってある。「北方四島は日本の領土」という看板が目



つく。国後島には富士山に似た爺爺岳(1822m)が格好よく望まれる。

牧場と農場

何しろ広い大きい。一枚の田畑の面積が播磨のあたりは兵庫県では大きいと思うが、北海道はその100倍はあるのではないかと。特に畑が大きい。

畦道がない、農道だ。境界に防風林か木が？植わっている。麦の刈入れが道央南では終わっ



ていなかった。道央北から道東では終わっていた。畑で麦藁を直径1.5m、幅1m弱のロールに巻いていた。それを沢山見た。トラックでも運んでいた。

牛や馬の下に敷くためだろうか？

北海道自転車一人旅（まとめ）

気候と天候

8月2日 小樽では紫陽花が満開だった。
札幌郊外では麦が色づいていた。



上川町にくと、蕎麦の白い花が畑に咲いていた。斜里ではコスモス・ススキがゆれていた。8月15日、オホーツクの海岸際の道傍には一面に野菊が咲いていた。半月の違いだが、

咲く花がこうも違うか。

天気も14日の標津までは晴が続いて30を超えていた。15日厚床からは昼まで霧、8月18日~25日釧路・苫小牧辺りでは連日、霧雨で23~24ほどであった。札幌では晴天で30を超えていた。例年は30を越えるのは、ひと夏に1日か2日だという。皆さん『暑い、暑い』といわれる。私はさほどでもない。

8月27日ニセコ高原では稲刈りが始まっていた。

北海道は広い。

距離感が違う。

道を訪ねて『ちょっと』といえは2~3kmを指す。



上のような看板が、道に向けて10kmないし数kmごとに立っている。牛は乾草と飼料とし尿の匂いがする。でも清潔にして、牛乳やアイスクリーム・ヨーグルトを売ったり見学を歓迎している牧場もある。



日高地方にくと、急に馬の牧場が増えてくる。馬は清潔。馬を見るのを楽しみに日高を旅行する人もいるようだ。ひずめを型どったブローチなど馬に関係した土産物も多い。



ニセコアンナプル

食事と飲物 金カップ

自宅では毎日小松菜やチンゲン菜を皿一杯食べていた。昨年四国で、便秘で往生した。

この度は、毎日、野菜ジュースとヨーグルトと牛乳。夜は発泡酒「のどごし」と焼酎25度200mlに決めていた。夕食は宿のものを食べた。漬物ひとかけらも残さなかった。朝食は稲荷寿司か巻き寿司に白菜の漬物とチーズ、昼は甘納豆や乾パンの行動食。

釧路駅前の市場の中に「ブッカケどんぶり」の看板を見た。ウニやイクラや刺身をご飯の上に乗せたどんぶり、食べたかったが、辛抱した。厚岸の道の駅では生カキの焼いたのを食べた。グルメと思って奮発したが、さほどでなかった。

若い頃「こまい」という魚の干物を職場のストープであぶって食べた。食べたしたらなくなるまで止まらないほど美味しかった。北海道に出張に行った者が買ってくるようになっていた。それらしきものをこの度、食べたけれどさほどでなかった。さわだ屋旅館付属の居酒屋の兄さん『その手は獲れなくなった』という。地酒も飲まなかった。

携帯コンロは持っていたが、コップを忘れた。大き目のカネのカップを買った。

350ccの発泡酒が8分目、宿で氷を貰うときなど重宝した。



札幌郊外の農業大学

地名と旭

新冠、訓子府、留辺蕊を貴方はどう読まれますか？ パソコンは賢い、ひらがな変換で間違いないく変換しよる。道路標識、地図にもローマ字

(nikappu, kunneppu, rubeshibe)で書いてある。アイヌの言葉に由来しているというが、うまい字を当てはめたものだ。幌の字がついた地名が多い。旭・勝という名がついた地名も多い。旭は地名だけではなく、店の看板もある。走っているとあちらこちらで見かける。

北海道の人に好かれているのではないかと思いつきながら確かめてこなかった。

北海道には北広島市や新十津川町など本州に似たような名前のある街がある。入植した人たちの故郷への思いが感じられる。『北海道は、寄せあつめたから』といった人がいた。

自転車野郎

自転車や単車とすれ違うとき、互いに手を上げて挨拶する。連帯を感じる。

自転車で旅行をしている人を斜里で学生4人組と会うまでほとんど見かけなかった。知床ではよく見かけた。ほとんどの人が輪行バックに詰めて、観光地までは手荷物で運び、そこで組み立て走っているようだ。

私があった自転車野郎はほとんどが、20代だった。30歳以上は見なかった。

チャリダーという言葉があるが、似合うのは青木 泉さんぐらいで、後は自転車野郎のほうが似合う。

一緒に走る仲間がほしい。一人は寂しい。

連れ立って走るのは危ない。夕方、落ち合う場所、時刻を約束して、各自、マイペースで走り、携帯電話か無線機で連絡を取り合い、夕食と泊りは一緒によい。

その日の出来事、感動を話し合いながら酒を酌み交わす仲間がほしい。

女性でないほうがよい。旅行目的と違うことに精力を使ってしまいかねない。



ニセコ高原

南米の最南端から北米の最北端のアラスカまで歩いた「世界最長の徒歩旅行」の夫婦は途中2回も、お目出たを迎え、兄貴にパナマの辺りで避妊具を差入れされる。

私には気持ちはあっても、能力がない。

自転車

ダートな道、砂利道など悪路をいうらしい。

枝道も含めて、ほとんどが舗装してある。

出発前に前後輪ともタイヤチューブ新品にしていた。

パンク修理道具や予備チューブから空気入れ、ペンチから六角レンチや油差しまで持っていたが、パンクはしなかった。

速度計と距離計が表示しなくなった。センサーの位置をいろいろ変えることでなおった。8月24日 終盤になってから、門別町本町と苦小牧の間のコンビニで自転車を止めたら、スタンドが立たなくなった。10mmほどの鉄の棒1本で立っているのだが、曲がってしまっていた。16kgの荷に耐えなくなったのか？

近くに自動車の板金工場があった。取外しバイス(万力)を借りて伸ばし、取付けなおした。

気持ちよくバイスを貸してくれた板金工場に



丁寧に御礼をいったが、すまない気がした。このとき、六角レンチが役に立った。

絶えず気にしていたのはブレーキだった。峠を下るときなど40km/h以上もスピードが出る。ブレーキが利かなくなったらどうしようと思う。釧路の自転車やでブレーキシユウを予備に持っているつもりで、買った。

チェンジレバーの返りが悪くなったが、そのまま走りつづけた。

絶えずリムとブレーキが擦れているように重い。日にちをおいて2回もなった。自転車屋を探して診てもらったが、2回ともどうもなかった。自転車屋に入っただけでなおってしまう。狐につままれたような感じで、釈然としなかったが、気にしなくなった。

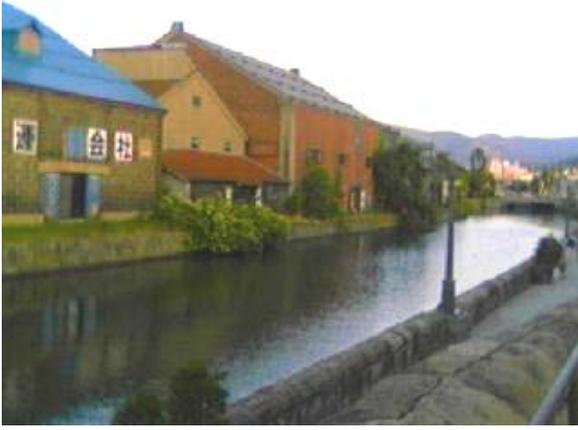
羊蹄山を振り返りながら下山



8月27日 快晴 秋を感じるニセコアンナブルと羊蹄山の間を倶知安に向けて走る。昨夜、泊っていた真狩YHと羊蹄山真狩登山口は4kmくらい、さらに12kmほど走ったところで半月湖登山口の標識も見えた。

登山口のキャンプ場で泊っていたら、相棒ができていたかもしれない。真狩YHでは羊蹄山から下山してきた客と私だけだった。

『快晴で見晴らしはよかった。結構、思ったより急登だった』ともいっていた。もう一度一緒に登ってくれとはいえなかった。



小樽運河

グルメも温泉も求めず、サッポロビール工場見学、アイヌをはじめ各種の記念館や展示館も寄らなかったなどと思いながら、小樽を目指す。小樽に下ったら夕方だった。運河の周りはアベックの巣であった。人力車も数台客待ちでたむろしていた。

忘れ物

いそいそと小樽港を出発。8月2日 小樽の郊外にさしかかった頃、あるべき背中にリュックがない。急いで出発した健康風呂の横のコンビニへ。往復8kmの損。駐車場の脇にあった。それから自転車にもたらかして置くようにした。

8月22日 三石町の道の駅まで来て、浦河町のコンビニの郵便ポストの上にメモ帳を置いて電話をかけてそのまま忘れてきたことを思い出す。8kmほど引き返す。1時間以上経っていたが、そのままちゃんとあった。

落し物

8月14日 2回も落し物する。国道235号線を走っていた。富川町辺りでコンビニに向けて横断歩道を渡ろうとすると『オーイ、オーイ』と呼ぶ声がする。振り返らなかった。

『呼んでもしらぬ顔で行かれたが、これあなたのものでしょう。落としていたよ』と自転車用取り付けバックを差し出される。

鶴川町の道路工事の交通整理係に荷台の紐が緩んでいるのを注意される。シュラフがない。探しに戻るか？ 戻らないか？ 迷った。『札幌

は30 あるが、太平洋岸側は24~25、夜は寒いよ。取りに帰ったら』とすすめられる。2kmほどバックする。反対側の歩道に転がっていた。工事交通整理係に礼をいう。

歯医者

8月8日 右下奥歯の被せが昨晚はずれた。そこへ舌がいて仕方ない。舌が痛い。それでも舌が行く。かぶせがあれば被せようと探すが、ティッシュに包んでなおした筈だがない。生田原国道242号線沿いに歯医者がある。保険証のコピーを出して『仮払いで、自宅に帰って町役場で清算する』と治療をお願いする。開業して間なしか？ 綺麗で、広く、ゆったりしている。レントゲンを撮り、研磨して、樹脂を詰めて丁寧、舌に薬までを塗ってくれて¥1400円だった。

幸運

実に、幸運続きだった。本当にありがたかった。

昔の武将は出陣前に必勝祈願をしていたそうだが、祈願というより信心している神や仏に決意表明していたのではないか？

私は、神や仏に幸運をおねだりしない。

神や仏がいるように思わないし、信心していないし、拝まない。

アイヌも神社やお寺をもっていなかったらしい。自然を崇拝していたという。

私も平和と自然を大事に、誠実に生活したい。

「吾に七難八苦を与えたまえ。」と祈って、尼子三勇士は強くなったらしい。

次の目標

平和の原点を考えるため沖縄を勉強したい。

屋久島・宮之浦岳も登りたいし、できれば永田岳と縦走したい。

奄美も訪ね、福井さんにも会いたい。



石狩川中流は旭川市街の手前、
石狩川と巻き道とトンネルが並行する辺り

(雑感) コンビニ

上川町 - 丸瀬布町・羅臼町 - 標津町間・広尾町 - 襟裳本町の間にはコンビニがない。

30km ほどない。コンビニによるたびにトイレを借りた。それから買い物をした。

2 ~ 3 軒、店の中に椅子とテーブルのあるコンビニがあった。冷房が効いているので調理



遠くは斜里岳 手前は、蕎麦畑

パンも食べたし、メモもする気にもなった。屋外でもベンチのあるコンビはありがたかった。

食事はできたし、着替えもできた。

車止めに座ってパンを食べているのに、車のエンジンを止めず、排気ガスを撒き散らして荷を運んだり、車から離れて帰ってこないドライバーは腹が立つ。怒鳴り倒してやった。

情けないことに、そのドライバーに道案内されたことだ。

不要品

東室蘭で携帯トイレ 10 個・携帯コンロ・アイゼン、どれも一つも使わなかった。東室蘭のコンビニから郵パックで送り返す。

費用

- ・船賃往復(自転車とも) 24200 円
- ・バス代(登山口まで) 2920 円
- ・郵パック 1500 円
- ・宿代と飲食費 約 250000 円
- ・土産代 30000 円

以上



大雪山国立公園遠望 - 旭岳頂上から

「すずの子」2012年2月号寄稿「量より質に向けて」

大仁衛

1. 会員拡大目標 125 人を達成して

「100人から125人へ」の会員拡大目標を掲げてから5年6カ月になります。大変地道な努力だった。お互いに祝福しあいたい。組織部員、運営委員に敬意を表します。

改めて会員拡大の意義について考えたいと思います。そして、これからは「量より質」に力を注ぐべきだと思います。また、組織財政についても見直したらどうでしょう。

2. 会員拡大は

- ・会員と会に新鮮さと活気をもたらしてくれる。
- ・安全と自然環境保護意識のある登山者とハイカーを増やせる。
- ・後継者をつくれる。
- ・財政を潤す。

ただ会員拡大は特別なことでなく、不断に日常にすすめる当り前のことです。生物は黙って子孫を増やし仲間を増やしています。

これからもなおざりにすることはできません。

3. 例会参加と会運営参加

「すずの子」2011年11月号でストレッチの記事を見て、次の講演を思い出しました。

県連40周年記念講演「長く登山を続けるための身体の知識」で、トレーニングを、張合いをもって飽かずに続けるには、トレーニングの目的を具体的に決め、意識して取り組むこと。また登山のトレーニングには登山することが、一番だとも聴き、

『図5-Aはトラブルの発生率とトレーニングの頻度との関係を見たものです。トレーニングをたくさんしている人ほどトラブルの発生率が低いことがわかります。トラブルを防ぐにはトレーニングが大切だといえます。』

図5-Bはこのトラブルの発生率と登山頻度との関係を見たものです。つまり登山自体がよいトレーニングになるわけです。また、図5-Aと図5-Bを比べてみると、「ほとんど毎日」トレーニングしている人よりも「2週間に1回以上」山に入っている人のほうが、トラブル発生率が低いことがわかります。快適な登山をするためには、下界のトレーニングも大切ですが、なによりも沢山、山に登ることが大切なことがわかります。』

以上は、講演で使われた「快適な登山のためのハンドブック」の抜粋です。

私たち山の会は善意と奉仕で成り立っています。気

図5-A トレーニング頻度

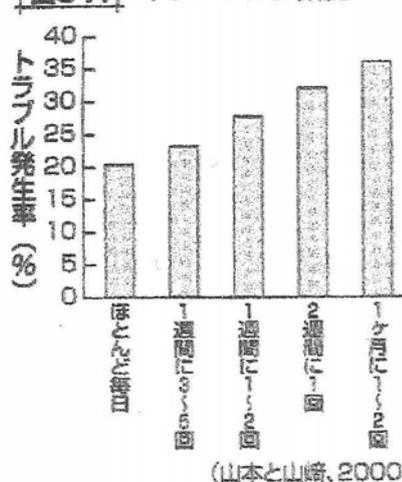
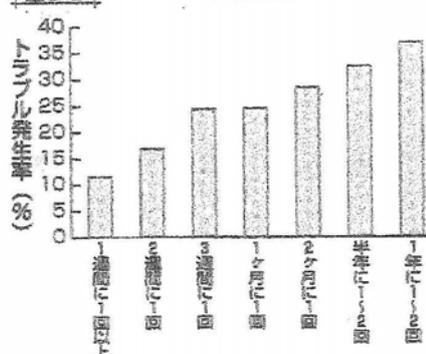


図5-B 登山頻度



のついたこと、些細なこと、仲間を盛りたてることを何でも話し合い、行ってほしい。そして会運営に参加してほしい。

4．感動ある山行を

労山全国登山者集会で、雑誌「岳人」の編集長から「視力障害者の青年が小学生から毎年、富士山に登っている。景色も見えないのになぜ登るのか？」と尋ねたら、『登山ほど緊張感があり、達成感を味わえることが他にない』という返事が返ってきた」という話を聞きました。

5．独り立ちする登山者、ハイカーに

北海道旭岳～トムラウシ岳縦走の低体温症による遭難の記憶が忘れられません。連れてってもらったツアー登山の最悪の出来事だったと思います。自分で計画し、独り立ちする登山者、ハイカーを目指しましょう。

6．単独行について

山行規定第8条では「単独行は、安全登山の見地から原則として認めない」とありますが、原則以外について討議されたことを聞いたことがありますか？

一人で、トレーニングのために山を歩くのは例外ですか？ おそらく計画書は出されていないでしょう。山の会は単独行を禁止しながら、黙認しているのでしょうか？

単独行は登山形態の一つであり、ロマンであると思います。雑誌「山と渓谷」に単独行の特集号があり、参考になる経験が掲載されていました。私も山の会に加入するまでは、ほとんど単独行でした。

その経験から単独行が認められてもよいと思う条件を列挙します。

- A．健康で体調がよいこと。
- B．装備がそのコースに相応しいこと。
- C．無雪期であること。
- D．一般コース（地図に点線以上で明記されている）であること。
- E．山行日程が休日、もしくは登山者の山行が予測できること。
- F．天候を見極め、無理をしないこと。
- G．登山教室を終了していること（リーダーの経験があること）。
- H．計画書を提出すること。
- I．留守宅本部を作っていること。登山口、山小屋、下山時等で連絡をとること。

7．若い仲間を

労山全国登山者集会で『昔はどここの小学校にも、土俵があった。今はない。男子なら誰でも相撲をとった。今はサッカーだ、野球だ。相撲の人気はもう一つだ、登山も将来が心配だ』という話が出ました。中学校ではトライアルウィークといって社会活動に取り組んでいます。私たち山の会も清掃ハイクを中学生と一緒にしたことがあります。これから学校、事業所に若い仲間を山へ誘いましょう。

8．リーダーを大切に作る会に

843mピークあたりから笠形山頂上の東屋が見え出す。やがて大屋からの道との出合、龍の背を越え、鎖場の岩を越えたら頂上（15:10～15:30）。頂上へ向かうCLに両側から握手、握手、握手の連続、握手攻め。頂上ではSLが跳びついてきて抱き合う。拍手、拍手。

くっきり澄んだ空に飯森山、その向こうに千が峰。『あれが千が峰、あそこから歩いてきたんよ』『すごい』『たいしたもんね』『いなみ山の会、始まって以来の壮挙だ』『快挙だ』『万歳

しよう』と誰もが感激をあらわにする。

『千が峰を踏み越え、笠形登頂万歳、万歳、万歳』と音頭をとった。頂上にはピンクと緑、絶妙のコントラストのツツジが満開だった。リーダー冥利につきる山行でした。

9. 団結の基礎を地域に！

毎月、「すずの子」を近隣会員に配っておられる奇抜な方がおられます。

昨年7月、神鉄大地から裏地獄谷に登ったとき、垂水労山に、はぐれたピジターを伴って登ったことがあります。『神戸中央によかったらどうぞ』といったが、その後、連絡がありません。この話しを垂水区に住んでおられる会員に話したら、『私も入会前に垂水に山の会があるのを知っていたら、そちらに入っていたでしょうね』と返ってきました。居住地を「山の会」の団結の基礎にするのはごく自然なことだと思います。

私は山の会を居住地ごと。地域単位に組織整備したらと思います。

そして日常的に連絡を取合い構報交換するようにしたら、もっと会員向土が仲良くまとまり、会員拡大もできるのではないかと、思います。

「団結の強さは、情報伝達の数にある」といわれます。

居住区ごとに運営委員を推薦し、「山の会」の選挙をする。選出された運営委員はその居住区域の会員と密接にする。居住区推薦の運営委員と技術の熟達者による専門部を代表する運営委員で運営委員会が構成されたら、小じんまりした仲の良さと併せて大きな会の力強さをもつようにならないでしょうか？

この組織体制を私たちの会で実践し、その実践を踏まえて県連に提案してほしい。

そして県連の指導のもとに地域交流会をもっと盛んに行い、既存の「山の会」の枠を超え、居住区の仲間同士の信頼関係が強まれば、県連も居住地を原則に組織整備をしたらどうでしょうか？

地域自治体と学校とも協力関係を作り、自然保護や健康増進に一役買って地域における影響力を強めたら、もっと広がる労山になると思います。加えて、地域にある事業所に働く勤労者を山に誘えるようにできたら、若い世代を山の会の仲間にしやすくなります。山の仲間は趣味を同じくし意気投合して困難な山も登りきるのだから、定規で線を引いたようにゆかないことに配慮するのは当然です。

組織原則を居住地にするに際して、注意しなければならないのはセクトと小さな「お山の大将」気取りだと思います。長期計画を練って進めてみては、どうでしょうか？

そして、国内登山・ハイキングは地域ごとの単位「山の会」が、海外を含む大きな厳しい登山は県連・全国組織の指導支援のもとに行う。研修・トレーニングも組織の段階ごとに分担したらどうでしょう。

10. 財政

A. 会員拡大して少しでもお金に余裕が出てきたら、会と会員に解かる形で利益を生じるように使う、返してほしい。例えば、会報印刷参加者や運営委員の会議への出席などの交通費は支弁する。

B. 会報をカラー印刷にする。そのために県連にカラー印刷ができる印刷機を備え、使用できるようにする。

C. しかし、できるだけ始末はする。例えば、会報は会員の理解協力を得て、パソコンの添付ファイルで送信する。パソコンの「ある」「なし」で差別が生じないようにすることが肝心だと思います。

大仁さんの思い出

2016年1月11日(月)初日の出(ブログ「自然と仲よし日記」より)

2016年元旦7:10日の出、須磨高倉台おらが山。『年のはじめに楽しけれ』と神戸中央山の仲間で合唱し、乾杯し、鍋をつつきました。



2011年12月18日(日)納山祭 市ヶ原 年を振り返りワイワイと



2011年1月23日(日)六甲山系・再度公園～鍋蓋山 寒さに負けず歩こう



山ガールに囲まれて

2010年8月22日(日)六甲山系・大池地獄谷 夏の六甲山を楽しむ



溪流をバックに記念撮影

2010年1月1日(元旦)日の出ハイク お神酒でカンパイ おらが山



おらが山で日の出を待つ

発行：2019年2月 〒651-0055 神戸市中央区元町通7丁目1-6
神戸中央山の会